

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

ASEAN グローバルに参加して

吉 田 亘

Wataru YOSHIDA

機械システム工学科 2年

1. はじめに

私は2017年8月29日から9月7日まで、ベトナム社会主義共和国ハノイ市とシンガポール共和国で行われたASEAN グローバルプログラムに参加しました。この研修を通して、近年急速に発展してきているASEANの国々に赴き、どのように発展しているか、現地の日系企業はその国でどのような企業努力をしているかなどを実際に感じ、自分は今のどのような立ち位置で何をすべきなのかを考えるいい機会となりました。

両国の印象をまとめるとベトナムは日本と比べると非常に活気づいている印象がありました。街並みは建設途中のビルが多数並んでおり、道路はかなりの数のバイクであふれておりまさに今急発展しているという感じでした。また、親切な方や日本語を話せる人が多く親しみやすかったです。シンガポールは様々な国の会社が入っている超高層ビルが立ち並んでいて、東南アジアの中心としてかなり発展していました。また、地下鉄や路線バスが張り巡らされており、あまり日本とは違いがありませんでした。

2. ベトナムでの研修

2.1 株式会社タカギ訪問

タカギはベトナムに工場を置いている日系の企業で主に散水器具や家庭用の浄水器を作っている会社です。日本人幹部の人たちの説明によるとタカギベトナムでは地域とのつながりを大事にしていると思いました。例えば今はマネージャーのほとんどが日本人ですが、いずれは工場長以外はベトナム人にしていくという計画があります。この話を聞いて日本の利益だけでなくベトナムの将来のこともしっかりと考えていることが分かりました。またベトナムを

選んだ理由としてはベトナムの方々の手先が器用であり、こだわりを持って仕事に取り組む国民性が日本人と似ているからだそうです。

2.2 Rikkei Soft/NTQ 訪問

日本と深く関わっているベトナムのIT企業を訪問しました。まず始めに訪問したNTQは、ほとんどの取引先が日本のIT企業ですが、最近ではロボットや飛行機の開発にも力を入れていて機械系の事業にも取りくんでいる会社です。NTQのオフィスはほとんど間仕切りが無く非常に開放的な印象を受けました。したがって、社員同士がとても仲が良く楽しんで働いているように思いました。NTQでは社員は家族という理念を掲げていてベトナムでは離職率が20%を超えるのに対してこの会社では5%前後と非常に低くなっています。また、この会社が日本を相手に出来るのは日系企業と提携して仕事をしてきた人たちを採用し、日本語が話すことができた日本の方が多いと聞きました。実際に社員の方と話してみても日本語を話すことが出来る方が何人かいました。

Rikkei SoftもベトナムのIT会社で、創設時のメンバーは全員日本の大学を卒業しており会社名もその留学先の大学の名前が由来です。IT事業を始めたのは、ベトナムではIT関連の仕事は準備に非常に手間がかかり、競争相手が少なかったことが理由と聞きました。また、この会社も日本語を話すことができる社員が多く、みなさんとてもフレンドリーなので、社員との交流の時は色々な話ができました。

この二つの会社訪問で共通してベトナムの人たち日本に対しての興味が非常に高いと思いました。日本とベトナムはこれから今よりもさらに深い関係になっていくと思うので自分たち日本人もベトナムについてしっかり学んでいかなければならないと思いました。

2.3 PBL

ベトナムでの3日間はハノイ工業大学のベトナム人学生を交えてPBLを行いました。PBLの内容としては班で話し合い、実際に現地のベトナム人にアンケート採ったりしてユニクロの商品をベトナムで売り出す方法を考えそれをプレゼンするというものです。このプログラムが自分にとって一番きつかったと思いました。英語を使つての相手との意思疎通が非常に困難でした。特に日本語の細かいニュアンスを英語で伝えるのがかなり難しかったです。実際にプレゼン用のポスターのレイアウトのデザインを、ベトナム人学生に伝える時に上手く英語が話せず、他のチームと比べてあまり出来が良くなかったという事がありました。アンケートの収集ではかなり歩き回ったので体力的にかなり疲れたのですがベトナム人学生の助けもあり、スムーズに行う事が出来ました。なによりアンケートを受けてくれる現地の方たちが非常に親切でした。また、大学内でアンケートをしている時、ここでも日本の事についてよく知っていたり、日本語を話すことが出来る学生が何人かいて非常に驚きました。

3. シンガポールでの研修

3.1 南洋理工大学訪問

シンガポール二日目は南洋理工大学というアジアの大学ランキングで一番の大学に訪問しました。何個かの研究室を見学させてもらったのですが機械系のもが多く、私は今ロボット開発など機械系の分野に進みたいと思っているので非常に興味を持つことが出来ました。例えば医療系のロボットの研究室ではハンドルを使った遠隔操作で物体を運ぶという

研究をしていました。他に、レーザーを装備させて戦うゲーム用のラジコンロボットを研究しているチームがありました。また、学生の話を知っているととても研究に対しての熱意を持っていたので自分たちも見習わないといけないと思いました。

3.2 ビジネスパーソンとの交流会

この研修の最後のプログラムとして加藤順彦さんをはじめとした5人ビジネスパーソンの人たちとの交流をしました。この方たちの話を聞いていると日本国内で商売をして成功するのは難しいと教えて頂きました。なぜなら日本は少子化で需要自体が少なくなっているからです。そういう事から現在急速に人口が増えてきているASEAN地域は競争相手も少なく、人口は日本の何倍も多いので商売を始めるにあたってはとても条件がそろっていると言えます。それ以外にも日本とシンガポールとの違いやどういった経緯で海外に住むことになったかなど、海外での仕事や生活について教えていただいたり、自分の将来のキャリアについてアドバイスを聞けたりして非常に貴重な時間となりました。

4. おわりに

私は今回が初めての海外に行く前はかなり抵抗があり不安でしたが、いざ行ってみると少々の調不良などがありましたが思ったよりふつうに過ごす事が出来たと思いました。また、それと同時に英語など自分が今すぐにすべきことが多々見つかったので今回の研修が無駄にならないように気を引き締めて今後の学校生活を送らなければならないと思いました。